

平成 26 年度第 6 回第 2 次山縣市総合計画策定審議会 会議事録

日時：平成 27 年 1 月 13 日（火）午後 1 時 30 分～

場所：山縣市役所 201 会議室

出席者：委員（敬称略）丹羽 英之、杉山 正樹、吉田 茂広、佐野 恵津子、江崎 由里香、  
藤田 昌子、大野 朝義、平田 久美子、大沢 登美子

：事務局 久保田 企画財政課長  
石神 企画財政課主幹  
梅田 企画財政課主任  
ジャパンインターナショナル総合研究所

欠席者：古田 登

○次第

1.開会

2.会長あいさつ

3.議事

- 1) 基本構想について
- 2) 第 1 次計画の評価について
- 3) 基本計画（案）について
- 4) その他

4.閉会

1.開会

【事務局】

ただいまから第 6 回第 2 次山縣市総合計画策定審議会を開会する。会議に先立ち、事務局からご案内ですが、1 月に商工会長が古田さんから宇野睦さんに代わられたということですが、委員を市から委嘱させていただいたときに、当時の商工会長として個人委嘱したということで、引き続き古田さんお願いするが、本日は欠席の連絡をいただいている。

2.会長あいさつ

【会長】

第 2 次総合計画も佳境に入っており、本日も計画案の確定に向けてご意見をいただきますことをお願いしたい。早速、はじめたいと思う、よろしく申し上げます。

レジメに沿って進めたいと思うが、その前に今後のスケジュールについて先に説明をお願いする。

3.議事

【事務局】

H24 年 10 月からアンケートを始め、現在第 6 回の審議会となっている。今後については、基本構想を今日合意していただければ、直ちにパブリックコメントで広く市民の皆さんの意見を募集したいと思っている。期間は 1 ヶ月弱だが、その間に頂いた意見を踏まえて、2 月 12 日の第 7 回審議会でも頂いたパブリックコメントと事務局の頂いた意見に対する考え方をご審議いただき、13 日以降で議会の開会に基本構想を上程させていただく。第 7 回審議会でも合意を頂いて、会長か

ら市長へ基本構想の中間答申をしていただく。基本計画については短時間ではありますが、集中審議していただき、年度内に決めて市長へ最終答申をしたいと思っている。但し、議会の方も基本構想だけでご審議頂くということではできないので、基本計画がその時点で決まっていなかった場合は、その時点での参考資料として議会に上げたいと思っている。最終的に決まった計画案は、改めて議員の各位には配布させていただく。できましたら、予算は今年度に概要版の印刷費が入れてありますので、基本構想について印刷業者を決めて、ダイジェスト版のデザイン等をやりながら、4月号の広報で全戸配布できないかと考えております。尚、全刷版は全戸配布を考えていないので、関係機関等で数百部の印刷となる。

**【会長】**

それでは、基本構想について説明をお願いします。

**【事務局】**

前回、ご審議頂き、会長ともご相談させていただいた中で、若干修正したものを12月議会に配布した。その後更に内容を詰めて、お送りした後にも修正しているので、事務局から内容が変わった所について説明させていただく。

**【事務局】**

今日配布させていただいた1月版で、直しきれていないところがあり、4ページの中段と7ページに、「・・・高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯・・・」の「者」を削除する。12ページの「9. 教育・文化・生涯学習の状況」で、今般、教育委員会で計画が審議されており、それに基づき、内容を大幅に変更させていただいた。9. についてはほとんど変わっている。その説明は後からさせていただく。22ページについては、前回ご議論頂き、基本理念を最初に持ってきた。次の第2節でめざす将来像を書いている。24ページは、本市の人口推計と目標値のところで、将来的に27,800人を目標人口とするということだが、階層別に人口を表記している。下に、世帯数の推移を入れ、世帯数と世帯あたりの人員数を差し込んだ。後は変わっていない。28ページだが、3章を設け、土地利用構想を入れ、土地利用構想を別立てにした。素案につきましては以上である。

9. の所はご説明した方がよろしいか。先程の教育のところは、大幅に見直したところである。<資料 基本構想素案、12ページ 9. 教育・文化・生涯学習の状況>の説明

**【会長】**

ご意見をどうぞ。

**【委員】**

前回のものには、生涯学習リーダーバンクの発足というのが具体的にあげてあったが、今回、その文言が抜いてある、削除したということか。

**【事務局】**

リーダーバンクは今後も実施するが、本編の基本方針として、教育委員会が定めた計画に沿った文言に変更したと。それをやらないということではない。基本計画の内容には、そういうものは全部盛り込んでいる。

**【委員】**

22ページのめざす将来の姿のところで、前回、文化を入れるという議論をしていたと思うが。

**【事務局】**

基本理念のところで、文中に入れている。また、「夢や希望」を入れてほしいというご意見があったので、それについても入れ込んでいる。

【会長】

12 ページの児童生徒数 2,247 人、前は 2,317 人ですが、新しい資料の方が正確ということ  
でよいか。

【事務局】

教育委員会から平成 26 年 5 月 1 日現在の数字を出されたので掲載した。

【会長】

前の数字も同じ 5 月 1 日現在だが。

【事務局】

新しいのが正しいと思うが、確認させていただく。

【会長】

先程、教育委員会の何からこれを引いてきたといわれたのか。

【事務局】

教育委員会が教育基本計画を策定しており、そこからである。

【委員】

私も、そのメンバーになっており、相当この辺で色々な話が出て、総合計画とも関係している  
ので、見直した方がよいのではとなり、この数字になった。

【会長】

今、聞いた中では、感覚として、構想の話としては細かすぎるかなと感じる。基本計画の方な  
らまだしも、構想部分なので、少しこの部分細かすぎると感じた。他のところとのバランスはよ  
いのか、細かい感じがする。

【事務局】

確かに記載が他と比べて詳しい。現在策定中の教育振興基本計画をもとに書いたということも  
あり、内容が細かくなっている。

【会長】

24 ページの定住人口の中で、年齢別人口目標値と世帯あたりの人員数はよかったと思っている、  
以前はなかったのだ。

【事務局】

先程の小中学校の児童生徒数ですが、今、教育委員会に確認したところ、前回は間違いで 2,247  
名が正しいということである。

【会長】

その他、ご意見がありましたら、どんなことでもどうぞ。

【委員】

定住人口の 5% の増加は何も問題はなかったですか。

【会長】

何故 5% かという話は前回ありまして、5% の説明があると、それではということになるが、

説明がなく5%ということでは、疑問がおきるといけないので対応しておいてほしい。

**【委員】**

定住人口の考え方というところで、箇条書きで書いてありますが、推計値からもっていった感じがありまして。

**【事務局】**

12月議会で一般質問があり、あくまでも総合計画をつくる上で、住みよいまちづくりということで、人口が増えることが必ずしもいいわけではない。例えば、県内では瑞穂市が人口増加していて、学校をつくっていかねばいけない。待機児童がいるのは42市町村の中では瑞穂市だけである。人口が増えれば幸せになれるというものではないが、人口減少社会を真摯に受け止める姿勢も必要であり、例えばこれだけ減るものを9年後には10%増やす。普通の人口動態から1割急増させることがいいのかどうかというのは、必ずしもとはいうことではないという話をしました。では、5%が妥当かどうかということは、明確なものはないかもしれないが、何らかのよりどころを用意したいと思う。

**【委員】**

13ページ、第3節の市民意識調査は2年前ですが、2年前の調査結果を出していいのかどうか。その後は何もやっていないですね。

**【事務局】**

活動人口の関係でこの間調査したのが最終です。その前は団体ヒアリング、無作為抽出については2年前ですが、これは計画策定上どこの自治体でも平行してやるわけにはいかないのです。国調も間もなくありますが、平成22年度のデータを使うしかないというは避けられないです。

**【会長】**

避難訓練のため中断します。

**【会長】**

では、再会します。

**【委員】**

30ページの分野別施策の基本方針で、前回、時代に合わせて並び替えるという話があったが。2番の2「快適な住環境の整備」で、その中の「2 景観形成の推進」「3 公園・緑地の整備」は、3番の「美しい街並みと憩いの空間づくり」に入るのではないかと。3番の「1 住宅・住環境の整備」「2 水道水の安定供給」は2番に入るのではないかと気がする。

**【事務局】**

これは仰るとおりで、単純なミスだと思われる、推進施策の方を各々入れ替える。

**【委員】**

基本構想は重要だと思うのですが、基本計画の方がいつも時間切れになってしまうので、今日時間があればこちらに触れていただければと思う。

**【事務局】**

基本計画の前に、簡単ですが第1次の評価したものを概括的ではありますが、ご説明させていただく。＜第1次山県市総合計画の評価の説明＞

**【会長】**

これは、平成24年に行ったものですか。

**【事務局】**

これは総合計画の後期計画の検証です。実施計画の検証ではありません。昨年評価を行いました。

**【ジャパン総研】**

昨年評価いただき、集約が今年度になってしまったが、総合計画の評価ということで、5年分の後期計画を評価をしていただいた。

**【会長】**

誰がやったのですか。

**【ジャパン総研】**

各課で実施した。毎年の実施計画のものとは少し性格が異なり、これまでの総合計画が数値を評価するという視点で策定していなかったもので、全体の中で概略的に達成できなかったものが、ピックアップできればという趣旨でやらせていただいた。評価の中にも文言で入っているが、評価の明確化ができるようにというところが必要かと思うので、次期の基本計画にはでき得る限り各課から5年間の数値目標を出していただいている。こういった課題も含めて次の計画に数値の検証もできるように反映させていきたい。

**【委員】**

行政の評価と市民の評価と随分違っている、この評価は甘いと感じる。

**【ジャパン総研】**

次の5年後には数値目標がしっかり入ってきますので、甘い評価もできなくなる。

**【委員】**

Aの評価が多い。

**【事務局】**

第2章の評価では、Aは半分もない。内容をみると、「美しい街並みと憩いの空間づくり」のAが0という状況で、今年度が総合計画の最終年度ということで、今年度の予算をつくるにあたって、市長、副市長を交えた協議の中で、ここを何とかしなければならぬのではないかとということで、東海環状道の開通も着々と足音が聞こえてきましたので、市長は今年度は都市計画元年として、インター周辺についても具体的な案を積極的に行政が進めていくということで、今詰めている段階である。お配りしている基本計画は本部会議にはかけておらず、市役所の主幹を中心としたプロジェクトチームで検討した案である。その辺りの計画が手薄いなという思いをしていて、もう少し書き込まなくてはいけないなと思います。今、言われましたように、これを第三者に見てもらっても結局は主観的な評価になってしまいますので、次回の時には、より数値目標を定めて客観的な評価に切り替えていこうということです。

**【委員】**

確かに、「美しい街並みと憩いの空間づくり」が薄い。

**【事務局】**

ここが一番手薄なので、それを踏まえて計画が書き込みが弱いなという気がする。

**【委員】**

これは、13 ページの市民の意識調査でも出ている。まちへの愛着や暮らしやすさの評価で、「暮らしやすいと思う」が 45.3%で、「どちらとも言えない」「思わない」が 50%を超えるので、その辺も出ているのでは。

**【会長】**

構想について特にご意見は。なければ、基本計画へ移りたいと思うので、説明をお願いします。

**【事務局】**

<基本計画 第1節の説明>

**【事務局】**

第1節の一番重点的な項目としては、山県市の健診の受診率が極めて低い。岐阜市よりも低い。近隣の中で一番低い率となっている。これを何とか高めなくてはならないというのが、市役所の重要な課題の一つである。早期発見・早期治療、事後指導を徹底することによって、健康寿命を伸ばそうという重要な要素なので、健診率をどうするか。4ページの(3)成人・老人保健の推進について、私としては書き込みが手薄いと思っている。先程、60%は無理だという話もありましたが、無理だと思わずに達成する勢いを出さなくてはならない。具体的には、集団検診は女性に配慮が足りないという意見がたくさんある。受診のあり方、山県市内には診療所が多いが、診療所に行って改めて健診しなくても、主治医に診てもらっているからいいという意識の方が多いので、町医者も併せてその時に健診をしてもらえないかと健康介護課と市民環境課で各々医院へ行ってお願いをしているが、まだ十分ではない。地域の医師会の医師の方々と、集団でやる場合にはもう少し市民が受けやすい環境づくりをしていくというのが、来年度に向けて重要な課題でもある。

もう一つは、3. 地域医療に関して、市内の中核病院としては岐北厚生病院しかないが、少子化対策ということで、あそこには小児科と産婦人科がないということで、何とかしなくてはならない。ただし、現在の病院のキャパシティもあり、今、周辺又建物を取り壊しており、中高層のビルを建てて整理したいということで、市としてもバックアップしている。後は、救急医療を確保したいということで、別途特別交付税というものが措置されるが、15床で5千何百万補助金を出している。寄付講座という言葉が聞かれたことがあるかもしれないが、岐大病院から医師が来ることに對して1,000万円の補助があり、全て県から出るのだが、そのお金によって岐大から週に1回産婦人科の医師に来てもらっていたと思うが、そういった中核病院の支援をしていかななくてはいけないので、次回の時に書き加えなくてはならないなと思っている。

**【委員】**

6ページの数値目標で、「ストレスが大いにあった人の割合」というので、例えば、家族の死があつたりとかライフイベントとかでストレスがかかるのは当然で、この基準というのが非常に難しいなと感じる。ストレスがすべて悪いというわけではなく、ある程度のストレスがあり、力を発揮するという捉え方もあるので、抑鬱とか鬱病とかもっと病的な状況が減少するとか、有病率が低下するとかそういう方が説得力があるのかなと思う。難しいかもしれないが、ストレスが大いにあった割合というのは、個人によってもその捉え方が様々なので。

食育のところでは朝食摂食率というものもあるが、今、食育の重点目標の一つに、家族と一緒に食事をするという共食を高めるといのが重点目標でも上げられている。朝食だけでなく夕食も子どもだけで食べているような子も割といたりするので、数値は難しいとは思いますが、そういったこともご検討いただければと思う。

**【事務局】**

ストレスに関しては仰るとおりで、適正なストレスは人間が生きていく上で必要なことであって、ここに数値目標に上げてあるのは、大いにあった人となっているが、主観的なもので、心理学でいいますとダムを超えてはいけませんが、そのダムは個人差があります。大いにあったというのは、アンケート項目から使っている言葉だと思うが、担当課と詰めさせていただく。仰る意味は充分分かるので、どう表記するのがいいのか検討する。

朝食に関しては、平成 27 年度に食育の計画をつくりかけている。アンケートも来年度行う予定でバックデータがなく、今、担当課が掴んでいるのが朝食摂食率しかない。共食については私も見たことがないので無理かもしれないが、なるべく今の時代にあったものを担当課と詰めさせてもらう。朝食摂食と三食などと夕食はワークライフバランスという問題もあるのだが、管理栄養士と詰めてみたい。

**【委員】**

災害時の医療体制の整備は、現在は全く整っていないのか。実際起こった場合、大変だと思うが。

**【会長】**

協定を結んでいる。

**【事務局】**

協定もですし、総合防災訓練でもやっている。

**【委員】**

平常時から連携の強化と書いてあるが、これは当然のこと。整備しておかないと。

**【委員】**

高齢者対策の計画は、こちらにももってきていますか。

**【事務局】**

当然、健康介護課は重なっているのでリンクしている。細かくチェックしてみて、おかしなところは直していくが、高齢者福祉はバランスはとれていると思う。今年度、個別計画をつくっているところは両方ともリンクしています。健康山県 21 も来年度つくる予定で、食育と健康山県 21 は 1 年遅れなので、来年度 27 年度中の予定です。健康山県 21 は今年アンケートとり、来年度中につくる話になった。食育は来年度アンケートをとり、来年度つくる話になっており、丁度、計画期間満了の頃だが、高齢福祉については、今、旬でつくっているの、担当課として見落としなくリンクしていると思う。この次の子ども・子育てのものが反映されているか少し疑義は感じてはいるが。

**【会長】**

救急救命士は、14 名でよいという考え方なのか。

**【事務局】**

救急車が 3 台あり、班体制でやっているが、そのローテーションの中で取り敢えずは充足している。今のところ、これを増やしていこうという話にはなっていない。消防に関しては、近隣自治体と広域化について改めて検討していこうという動きがあえるが、どこまで書き込めるかというところである。山県市の消防本部だけでは中々限界があるので、広域連携というのがあり、近々岐阜市や本巣市と話し合っていくことになっている。

**【会長】**

では、次お願いします。

**【事務局】**

<第2節 少子・高齢化対策の充実の説明>

**【委員】**

「放課後児童対策の強化」には、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を検討するとあるが、放課後児童クラブ利用者数を減らしたのは、子どもが減るから減らしたのか。

**【事務局】**

「山県市子ども・子育て支援事業計画」に基づいたものなのか。補足で申し上げると、第1節で体制強化とあるが、少し体制が弱い。特に国では子育てコンシェルジュとか色々なものが出ていて、その辺りのものが見えてこないということがあるし、第1節を強化しないといけない。第2節は仰るとおり、放課後児童クラブ利用者数が減ることを数値目標にすることは少し違和感がある。もう一つは、保育所の統廃合も8園を6園にすることが目標ではないので、これも変えなくてはならないと思っている。例えば、延長保育の利用時間数を延ばすとか、それをやるために子育ての親が利用しやすくなったかというのを、6園にして利用しやすくなるわけではないので、少し指標が違うと思う。指定管理とか民営化とか延長保育時間の期間を長くするとか、ここの数値は変えていきたい。

もう一つは、保育だが、国の施策として放課後子どもクラブと放課後子ども教室というのがあり、縦割りになっているのでここも整理が必要である。例えば、幼稚園も無償化していくという国の流れもあり、親の負担をどうしていくのかということも内部で検討しているので、この辺りは変えさせていただきたい。

**【事務局】**

会長、これだけのものをこのペースでやっていくと終わらないので、どこかで区切りをつけていただきまして、できましたら、お気づきの点がございましたら、事前に口頭でもメモ書きでも結構ですので、事務局に仰っていただければ、次回には担当課と詰めて市役所の考え方を提示したい。

**【委員】**

103、104ページの男女共同参画社会の推進のところですが、「女性委員等の登用率」が38.2%が35%に減少している。学童保育の参加数も減っている。現状の数値よりは目標となる数値を上げた方がいいのではないかと。後、企業の育児休業制度の取得を設けている企業がどのくらいあるのかとか、そもそもそういうものがとれるのかとかそういうところが見えてこない。国も非常に力を入れているところなので、育児休業制度利用に繋がるような具体的なものをあげていただきたい。

**【委員】**

16ページの老人クラブの会員数の件ですが、2,776人が目標数3,396人になっていますが、これは毎年増えつつあるのか。

**【事務局】**

現状は減っていつている。クラブ数自体も減っているし、会員も減っているのが現状である。

**【委員】**

私達の地域においても、会員になれない人が多くなってきているので、少しこの目標は無理かなと思う。

**【事務局】**

今年度、担当課が初めて老人クラブに入りませんかと広報に掲載した。老人クラブの会長さんたちと担当課が相談しながら、会員数を増やす努力はしているが、広報を出したからといって増えたという話も聞いていないので、担当課が何か策があるのか確認する。絵に描いた数値目標を書くなどと言っている、何らかの策がある気がする。

**【委員】**

13 ページの高齢者福祉の充実のところ、施策の方針で健康づくりや介護予防への意識を高めるといふことで、提供できる体制を整えますとあるが、それに対するアンサーとなる数値目標ではない気がする。健康づくりというのが数値目標で、「げんき高齢者祝金対象者数」はどうか。見守りボランティアで介護予防ができるのかと思う。

**【事務局】**

この辺は介護予防ということでは、おでかけ促進と生涯学習でスポーツ・文化など他にも出てきていると思うが、わかりにくいので再掲することで整理したい。どちらかの施策に載せることにしているようで、何か抜け落ちていないか調整する。

**【委員】**

げんき高齢者祝金とはどういうものか。

**【事務局】**

80 歳以上の方で、介護保険の認定を受けていらっしゃる方には、3,000 円のまちづくり振興券をお配りして活用してくださいというものである。

**【会長】**

80 歳以上で、歯が 20 本あると何とかというのは。

**【事務局】**

あれは、「8020 運動」である。

**【会長】**

それは、どこかに書いてあるか。

**【事務局】**

4 ページにある。「げんき高齢者祝金」は 2 年前までは 77 歳以上だったが、山口市版の事業仕分けにかかり、どういう効果があるのかとなり要改善という人が多かったため、健康寿命が延伸しているので年齢は 80 歳に引き上げ、以前は限定されていたが、まちづくり振興券が使えるところであればどこでも使えることになった。3 歳の分については、ワンコインサービスを始めた。シルバーさんが 30 分で利益にならないものにも補助金を出すというものである。

**【会長】**

シルバーのワンコインサービスは、苦情がある。ワンコインでお願いできると思ったら、請求見たら 3 倍だったとか。

**【委員】**

これでいいかねと聞けば、後これとこれもやってと言え、それだけ払わなければならなくなるということを分かっていない。

**【事務局】**

事前見積もりだけでもいいし、見積もりは無料だという触れ込みで始めたのに、何でそうになっているのか。福祉課ではそういう話は聞いていなかった。

**【委員】**

48 ページの地域情報化の推進だが、山口市は無線LANが使えなく不便をしている。(1)に情報通信の充実とあるので、何年までに使えるようになるなど数値目標を出してほしい。例えば、こういうIT基盤がないとIT企業とかの企業誘致は根本的に難しいと思うが。通信が不便を感じているところがあるので、強化してもらえると若い人とか企業とか使えたと便利な社会になると思う。

**【事務局】**

今、分かる限りでお答えすると、企業を誘致したり企業に留まってもらうためには、通信情報というのは本当に重要な手段で、山口市が2003年4月に合併したときに、目玉の一つとして光ファイバーを市単で引こうとした。今から10年程前の頃でもそれほど早くはなかったが、今は100Mとか1Gというのが常識になっており、市のものはハイスピードでも20~30Mで、実行速度がそれだけ出ないので、企業から見れば何ともならないということがある。また、市が光ファイバーを新たに引くとなると何億、何十億とかかかってしまうので、市長はNTTに働きかけて、今、旧高富まで来ているのを何とか美山まで引っ張ってくれと交渉している。今の光ファイバーはCCN(ケーブルコミュニケーション長良)に有線テレビ局を指定管理しており、来年度指定管理の更新時期になっている。以前は公民館毎にWi-Fiポイントをつくっていたが、利用者が少ないので経営改革の一環で減らしたはずである。来年度の指定管理の更新で、自主事業もしくは市からの委託としてどんなことをするかということで、市が管理している光ファイバーとNTTの民間普及促進とは来年度の課題だと思っている。今、仰る需要は本当にそう思うので、担当課と詰めたと思う。

**【会長】**

会議の進行ですが、ご案内に15時までと書いてあるので、その他に何かあれば、それぞれ提出していただき、次の回も基本計画については詰めたと思う。

**【事務局】**

次回までに補強しなくてはいけないと思っているのは、土地利用のインター周辺の書き込みが少ないと思いますので追記したいと思う。

**【会長】**

今はありませんが、施策の中の体系の中にもページを入れてもらうと見やすいので、お願いしたい。

**【事務局】**

最終版の時に課名をどうするかと迷いがありまして、組織は変えてきますので。今、検討していただいている時には課名を表示していますが、最終成果版にはどうするか検討したい。

**【会長】**

3ページに、関係各課と連携と書いてありますと、課名が示してあるからこういう書き方になるかなと思いますが、色々なところでこういう書き方が出てきますので、組織の統廃合は当然あるので、書き方は考えてほしい。

その上に、「健康格差の縮小」とあるが、あまり聞かない言葉だが。

**【ジャパン総研】**

健康増進の計画の中で言葉として出ており、地域や社会経済状況の違いによる健康状態の差ということだが、例えば総合計画で考えると、同じ情報や取り組みが隣の市にはあり、山口市にはない、というように健康になるための様々な状況が市町で格差があるので、それをなくしていこうということ。

**【会長】**

そのことが、こちらの方で何か出てきているか。数値目標には出てきていない。

**【事務局】**

数値目標は難しいかもしれない。

**【会長】**

あまり聞き慣れない言葉である。

**【事務局】**

国からの目線でいけば、そういうのは重要なミッションなのかもしれないが、市内で健康格差というと、例えば、介護認定率となるのですが、少し難しいかもしれない。市の計画としては北部地域とか市街地域としても検討すべきだと思う。

**【ジャパン総研】**

考え方が広く、健康の機会や場が何かの事情で差が出ないようにという視点で、市の中での北部地域と市街地との格差ですとか、色々な考え方が出てくるので、整理して指標に集約して一つとなると中々難しいかもしれない。

**【委員】**

捉え方はどういう風にでも捉えられるので、捉え方が何通りもできるような表現というのは、よくないと思う。狭義の意味でのこういうことだと説明を前に付けてもらえればいいのかと思う。

**【事務局】**

この件はカットしたいなと思っている。これを書き込むと難しいかなと思う。

**【委員】**

同じ疾病の人でも状態の格差という風にも捉えられてしまうので、どちらかという、そちらの方が強いと思う。

**【会長】**

時間もあり、30分延長しましたが、基本計画を含めて最初にやりました基本構想のところで、意見があれば出していただいて、概ねよければパブリックコメントを進めてもらうことになる。基本計画は、今日やったことも含めてもう一度見ていただき、次の時にもう少し時間をかけてしっかりチェックしたいと思う。

**【事務局】**

基本構想の12ページ、9番が他と比較して詳細すぎないかということで、他と同じように言葉を減らしつつ、グラフを付けることを担当課と詰めて、できたら会長に一任にさせていただいて、事務局と詰めた上でパブリックコメントを受け、それを踏まえて次回に提示したい。

**【会長】**

そういうことでよろしいか。

**【委員】**

29 ページの「5 河川地域」の「危険か所」の「か」がひらがなになっている。

**【事務局】**

竹冠を使うことが多い。漢字は統一します。

**【会長】**

では、ありがとうございました。

閉会

以上